

八潮新校準備委員会（第1回）議事録

日 時 令和5年1月23日（月）15:00～16:30

会 場 県立八潮南高等学校大会議室

出席委員 臼倉委員長・町田副委員長・久保副委員長・菊池委員・山本委員
栗田委員・藤波委員・砂賀委員・秋元委員・山崎委員・北島委員
福良委員・佐藤委員

協 議 「八潮新校基本計画検討（案）」について

○ 主な意見・質問・回答

No.	主な意見・質問・回答
1	「株式会社の設立」は、全国的にみても先進的な取組であり、新校の「売り」になる。
2	目指す学校の案にある「実践型のビジネス教育に取り組むパイロット校」とはどのようなものをイメージしているのか。 (回答) 産業構造や企業活動が変化する中で、これまでの商業教育に加え、新しい分野での商業教育が求められるのではないかと考えている。 そうした中で、アントレプレナーシップ、マネジメント、マーケティングなど新しいビジネス教育に取り組む学校にしていけたら良いと考えている。
3	ビジネス教育を新校の特色としているが、普通科も設置するのはなぜか。 (回答) 八潮高校は普通科の高校で、八潮南高校は普通科と商業科の併置校であるため、その流れを汲んでいる。また、八潮地域の中学生の志願状況を見ると、普通科に対するニーズが一定程度あるものと認識している。 普通科においてもビジネスに関する学びができるよう模索していきたい。
4	八潮市は埼玉県の外れに位置している。千葉県、茨城県、東京都に隣接している中で、県立高校として、生徒募集をどうしていくのか検討していく必要がある。
5	「地域との連携」がひとつの大きなテーマになる。八潮市では現在の八潮南高校と八潮高と連携し、市の広報誌を生徒が編集するなどしている。市制移行50周年のときは、八潮高校と地元企業が共同でスイーツを開発するなど様々な取組を行っている。 八潮市として、新校になった際も地域の活性化のため協力できれば良い。

6	<p>異なる学科の生徒と一緒に学んでいくというところに興味を持っている。それこそが「ビジネス」である。</p> <p>学科を超えた横断的な学びによって、商業科の生徒の強み、普通科の生徒の強みを融合してひとつのことに取り組んでいけると良い。</p> <p>(回答)</p> <p>普通科、商業科、情報処理科がある現在の八潮南高校では、普通科の生徒も商業科の科目を選択できるカリキュラムになっている。新校でも学科を超えた横断的な学びができるようカリキュラムを検討していきたい。</p> <p>教科以外の学校行事等も含め、学科の壁を乗り越えられるような取組ができれば良いと考えている。</p>
7	<p>商業科だけの学校だと、将来がまだはっきりと見えていない中学生が選択しづらい。専門的な商業教育は受けられないにしても選択肢の幅が広い普通科のニーズもあると思う。普通科に入学しても商業系の科目を学べると、進路選択の幅を持たせることができる。</p>
8	<p>生徒指導の論点に「家庭との連携」とあるが、こういった連携を想定しているのか。</p> <p>(回答)</p> <p>学校でどのような教育が行われているかを家庭と共有しながら生徒の成長と一緒に見守っていくことが大事だと考えている。教育相談の観点も踏まえ、場合によっては専門的なスタッフも交え生徒一人一人をしっかりと見ていきたい。</p>
9	<p>両校とも生徒指導をしっかりとやっている、大変良いものを持っていると地元は評価している。両校の良さをうまく融合させていけると良いと期待している。</p>
10	<p>実際に入学してみて3年間でどのような学びができるのかを強調し浮き出させていくと、卒業後の進路についてイメージでき、生徒は力をつけていくのではないか。</p>
11	<p>一般的にイメージする、文系理系といった進路指導ではなく、すべての生徒が課題意識を持って、働くことの楽しさをイメージできるような進路指導ができると、「ビジネス分野で活躍できる人材」の育成につながるのではないか。</p>
12	<p>新校では、進路指導でも生徒指導でも新しいことに取り組む必要がある。「社会人になる」という観点を取り入れた新しい学びや「アントレプレナーシップ教育」など、働くということに対してこれまでの取組にプラスしていく必要がある。</p>
13	<p>両校は地域に支えられている。新校においても、企業や商工会、青年会議所と連携など、地元とのつながりを大事にしていきたい。そこからさらに挑戦するという意味で、生徒募集の範囲を広げていきたい。</p>
14	<p>新校はビジネス教育のパイロット校としてアントレプレナーシップ教育などに力を入れていく特色ある学校になる。全国的にも注目されるようになると良い。</p>